

## は じ め に

我が国では少子高齢化の進展や人口減少が一層加速し、家族や地域のあり方が大きく変化してきました。私たちの暮らしを支える医療、介護といった社会保障の根幹となる分野についても、将来への持続性や効率性が求められ、時代の背景や潮流、地域特性を踏まえた取り組みの実施が急務となっています。

県では、「県民一人一人が輝ける健やかな滋賀の実現」を基本理念とした「滋賀県地域保健医療計画」に基づき、県民のニーズに的確に対応しつつ、保健・医療・福祉が一体となって生活を支える「医療福祉」の仕組みづくりと地域包括ケアシステムの深化を目指して、各種の保健医療施策を推進しています。

当圏域でも、「湖南圏域2025年医療福祉推進協議会」を「南部地域医療福祉ビジョン」の推進の場として位置づけ地域包括ケアシステムをさまざまな主体による取組を進めてきました。制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、高齢者だけでなく、地域の住民一人ひとりが生涯にわたり、健康づくりを土台にして、病気や介護が必要になった時の事を心配せずに心豊かに安心して暮らせる地域を目指します。

令和3年も昨年を引き続き、新型コロナウイルス感染症の対応に全力で取り組んで参りました。クラスターや自宅療養者の増加等、管内でも医療体制が逼迫した状態となりましたが、試行錯誤を繰り返しながら取り組んできた次第です。今後も県民の皆様の健康と命を守るため、引き続き市、医療機関等と連携しながら対応して参ります。

当所としましては、これらの対応をはじめ、その他感染症や食中毒等の健康被害の発生を未然に防ぐことに努め、管轄区域内において健康被害が発生した場合には速やかに情報収集と被害の拡大防止や治療等に関する対策を決定し、市行政、地域医師会および医療機関等との連携を図り対策を進めるとともに、地域防疫・医療体制の確立に指導的役割を果たすよう取り組んでまいります。

この度発行する令和2年度の事業年報は、当所が取り組んだ業務内容をデータ化・集大成したものであり、私どもの今後の業務推進のバックデータとして、また、関係機関の皆様方にとっても有意義な資料として有効活用していただき、保健・医療・福祉の進展の一助としていただければ幸いです。

令和3年(2021年) 12月

滋賀県南部健康福祉事務所  
所 長 荒木 勇雄